

第5学年 学級活動指導案

- 1 活動主題 「5年生の友だちの輪を広げよう」 学級活動（1）
議 題 「自然教室みんなでがんばろう集会でどんなゲームをするか決めよう。」

2 議題設定の理由と経緯

- 本学級では、目指す学級像を「パズル学級」としている。これは、「一人一人がそれぞれのよさを発揮しつつ、集団としてまとまりのある学級にしたい」という強い願いを込めて、子どもと担任で設定した目標である。これまで、子どもは、この目標に向かっての取り組み「学級目標完成記念集会」「発表強化週間」を話し合いで決定し、実践してきた。その結果、92%の子どもが「学級の仲がよくなってきた」と感じており、共同実践による集団の高まりのよさを実感していることがうかがえる。

一方で、5年生全体の仲のよさについて尋ねたところ、62%の子どもが「十分に深まっていない。」と感じている。これは、学級編制後の間もない時期で、学級間の交流が少ないからだと考えられる。そこで、みんなで目標に向かって取り組む楽しさを味わいながら、友だち関係が広がりを見せるこの期に本活動主題を取り上げる。そして、学級だけでなく学年全体に友だち関係を広げるための方法を、目的や相互の立場、現実の生活から吟味し合い、集団決定した方法を学級や学年で実施できるようにする。このことは、よりよい生活をつくりだすために解決しなければならない共同の問題を自発的、自治的に解決し、友だちと信頼し支え合って生活を改善していく子どもを育成する上で大変意義深い。

- 8月実施の自然教室で、子どもによる自発的・自治的な活動を展開するためには、子ども相互の協力が不可欠である。その協力は学級内だけでなく、学級間にも求められる。本議題は、学級の壁を越えて学年全体に友だち関係を広げることを目指し、自然教室の事前に行う集会活動の立案から、準備、実施までを子どもが自主的に進めるというものである。

そこで本時は、今学期の学年強化目標「学級のかべをこえて、5年生全体に友だちの輪を広げよう」に向かって、「自然教室みんなでがんばろう集会」でどんなゲームをするのか話し合っ決めて。この一連の活動を通して、異なる意見にも耳を傾けたり、多様な意見のよさを生かしたりして、折り合いをつけながら合意形成することや、自分の役割を遂行したり、男女の性差を越えて互いに協力したりしながら共同実践することの重要性を実感させることができる。まさに、子どもが、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学年の生活をつくる雰囲気醸成するのに適した議題であるといえる。

- 本活動主題の実施にあたっては、学年強化目標の達成を目指すためには、集会でどんなゲームをすればよいのかを集団決定させ、決定したゲームを共同で実践できるようにする。

まず、「つかむ」段階では、昨年度の自然教室の様子をVTRで視聴させ、自分たちの力で楽しく、意義のある活動をつくりだすためには、互いの協力が必要であることに気づかせる。次に、アンケートの結果から、学年全体の仲が十分に深まってはいないと考えている友だちが多いことをとらえさせ、解決の必然性を生み出す。そして、仲を深めるために、どんな活動ができるかを話し合う場を位置づけ、活動主題と議題を選定する。

次に、「さぐる」段階では、子ども一人一人が自分の意見をもって話し合いに臨めるように、話し合いシートを用い、議題についての自分の意見をまとめさせておく。

さらに、「ふかめる」段階では、司会グループが円滑に話し合いを進行できるように、司会マニュアルを活用させる。また、観点に沿った話し合いができるように、意見を観点別に色分けしながら板書させる。加えて、折り合いをつけて合意形成ができるように、話し合いの目的を随時振り返らせ、三つの観点の中で最も重視される目的性の観点からの十分な議論を促すようにする。

最後に、「いかす」段階では、各学級の代表の子どもで組織する実行委員会の話し合いにおいて、各学級の話し合いで決まったゲームをもとに、実施するゲームを最終決定させる。そして、集会の実施を通して、学年強化目標の達成に近づいたことを実感させるため、活動時の写真や意識調査の変容グラフ等、学級や学年の成長を視覚的にとらえられる資料を提示する。また、自己評価や相互評価により、子どもが達成感を味わえる場も設定する。これらのことが、自然教室に向けて、学年全体で協力しようとする子どもの意欲を高めることにつながると考えられる。

3 目標

- 学年強化目標の達成を目指し、意欲的に話し合ったり、活動を進めたりしている。
 <集団活動や生活への関心・意欲・態度>
- 原案のゲームの中から、強化目標の達成を目指すという目的に合っているか（目的性）、全員で協力し合っているか（相互性）、活動時間や場所等を考慮の上、実際にできるか（実現性）という条件を満たすものを判断し、最も効果のあるものはどれかを考えることができる。
 <集団の一員としての思考・判断・実践>
- 活動による自分や友だち、集団の成長に気づき、強化目標の達成を目指した活動のよさを理解することができる。
 <集団活動や生活についての知識・理解>

4 指導計画（学級活動4時間+課外）

段階	活動内容（○…全体、◎…計画委員）	活動時間
つ か む	○ 8月実施の自然教室の目的や活動の内容を知り、学級や学年全体での協力が必要なことに気づく。	5月28日 学級活動
	○ アンケート結果から、「5年生全体の仲が十分深まっていない」と考えている友だちが多いことを、自然教室までに解決が必要な共同の問題として取り上げる。	
	◎ 今学期の学年強化目標（共同の問題の解決を目指すもの）の原案を作成する。	5月28日 昼休み
	○ 計画委員の作成した学年強化目標の原案「学級のかべをこえて、5年生全体に友だちの輪を広げよう」が適切かどうか検討する。また、この目標の達成を目指す取り組みについて話し合う。	5月31日 朝の活動
	◎ 学年強化目標の達成を目指す取り組み及び議題の原案を作成する。 ○ 計画委員の作成した原案が適切かどうか検討し、議題『「自然教室みんなでがんばろう集会」でどんなゲームをするか決めよう』を決定する。	5月31日 昼休み 6月1日 朝の活動
さ ぐ る	◎ 集会で実施するゲームについてのアンケート調査を行い、その結果をもとに、話し合う内容についての原案を作成する。	6月2日 朝の会 昼休み
	○ 話し合う内容についての原案を検討後、原案のゲームが学年強化目標の達成を目指すものになっているかを調べるため、試しの活動を実施する。	6月3日 朝の会 昼休み
	○ 試しの活動をもとに、それぞれが自分の考えをつくり、話し合いシートにまとめる。	6月4日 朝の活動
ふ か め る	○ 学年強化目標の達成を目指すために、「自然教室みんなでがんばろう集会」で、どんなゲームをしたらよいか話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <議題>「自然教室みんなでがんばろう集会」で、どんなゲームをするか決めよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画委員が考えた原案をもとに、学年全体に友だちの輪を広げられるゲームについて目的性、（相互性、）実現性の観点から意見を出し合い、実施するゲームを決定する。 ・ 班に友だちの輪を広げられるゲームについて目的性、（相互性、）実現性の観点から意見を出し合い、実施するゲームを決定する。 	6月7日 学級活動 （本時）
い か す	◎ 各学級の話合いで決定したゲームをもとに、集会で実施するゲームを実行委員の話合いで決定し、集会の準備を進める。	6月21日 昼休み ～25日
	○ 計画に従って「自然教室みんなでがんばろう集会」を実施する。	6月29日 学級活動
	◎ 集会活動を通して、5年生の友だちの輪が広まったかどうかを判断する話し合いの計画を立てる。	6月30日 昼休み
	○ 集会を振り返り、成果や課題を明らかにするとともに、学年強化目標の達成に近づいたかどうか話し合う。	7月2日 学級活動

5 本時

(1) 主眼

- 「自然教室みんなでがんばろう集会」で行うゲームの内容を決める話し合い活動を通して、友だち同士の関係の現状や立場、思いを考えながら、目的性・相互性・実現性の観点から意見を吟味し、よりよい集団決定ができるようにする。【他の個性の認識と相互の尊重】

(2) 準備

- 子ども…事前に考えをまとめた話し合いシート
- 計画委員…司会マニュアル、予想される意見の短冊カード
- 教師…掲示物（本時の話し合いに至るまでの経緯を表したものの、話し合いの三つの観点、話し合いの進め方、話し合いの時の話し方）、学級全員の意見の集約表

(3) 展開

主な活動	指導上の留意点		
<p>1 学年強化目標を設定した経緯をふり返り、目標の達成を果たすために行う集会のゲームを決めるという目的をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなで協力する必要がある自然教室の写真と、固定的になりつつあるという友だち関係についてのアンケート結果を提示し、問題を解決しようとする意欲を高める。 		
<p><めあて> 5年生全体に友達の輪が広がるようなゲームを「も（目的性）」と「じ（実現性）」から考え、意見をつなぎながら話し合おう。</p>			
<p>2 議題と提案理由を確認し、集会のゲームを決める話し合いをする。</p> <p>(1) 議題と提案理由、話し合う内容を確認する。 【議題】「自然教室みんなでがんばろう集会」でどんなゲームをするか決めよう。</p> <p>(2) 原案の内容について意見を出し合い、実施するゲームを何にするか決める。【話し合うこと①…学年全体に友達の輪が広がるゲーム、話し合うこと②…班に友達の輪が広がるゲーム】</p> <p>(3) 話し合いで決まったことを確認する。 【原案の集会の内容】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;"> <学年全体に広げる> ・じゃんけん王決定戦 ・ドッジビー ・つな引き </td> <td style="width: 50%; padding: 2px;"> <班に広げる> ・大なわ ・新聞じゃんけん ・リーダーをさがせ </td> </tr> </table> <p>【予想される子どもの反応】</p> <p><学年全体に友達の輪を広げる></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ドッジビーはみんなでパスを回し合って声もかけ合うので仲良くできる。 (目的性) ○ つな引きは、力を合わせてするので仲が深まる。 (目的性) <p><班に友達の輪を広げる></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大なわはアドバイスし合えるし、一体感が生まれる。 (目的性) ○ リーダーを探せは、準備がいらず、みんなで楽しめる。 (実現性) 	<学年全体に広げる> ・じゃんけん王決定戦 ・ドッジビー ・つな引き	<班に広げる> ・大なわ ・新聞じゃんけん ・リーダーをさがせ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画委員会に事前に話し合の流れを予想させたり、司会マニュアルを用いて話し合いのシミュレーションをさせたりすることで、本時の話し合いを円滑に進めることができるようにする。 ○ 話し合いシートに、3つの観点から意見をまとめさせたり、出された意見を観点別に色分けして板書させたりすることで、目的性と実現性の観点からゲームのよさを吟味しやすいようにする。 ○ 話し合いシートに書かれた意見を価値づけておくことで、発言への意欲を高める。 ○ 話し合いの観点へのふり返りを促す（まず、最も重要である「仲を深める」という目的をふり返らせ、結論が出ない場合に「実現可能かどうか」をふり返らせる）ことによって、互いの考えや思いを理解しながら、会の目的達成のためによりよい合意形成を図ることができるようにする。 ○ 互いの思いや考えの同じところを認め合ったり、違うところを受け入れたりしながら話し合いを進めることができたかをふりかえることができるように、話し合いシートの自己評価欄を活用させる。
<学年全体に広げる> ・じゃんけん王決定戦 ・ドッジビー ・つな引き	<班に広げる> ・大なわ ・新聞じゃんけん ・リーダーをさがせ		

<p>3 話し合いをふり返り、今後の活動に意欲を持つ。</p> <p>(1) 本時の話し合いについて、自己評価を行う。</p> <p>(2) 教師の話聞き、本時の活動のよさをふり返るとともに、今後の活動に意欲を高める。</p>	<p>○ 話し合いへの意欲を高めるとともに、互いを尊重しながら話し合えた事のよさを実感することができるように、観点に沿って発言したり、友だちの意見につなげて発言したりしていた子どもの姿を取り上げて賞賛する。</p>
---	---

6 指導の実際

(1) 解決の必要性を強く感じる共同の問題への気づきを生み出す手だて

子どもたちは全体的には仲よく物事に取り組む傾向にあるが、学級内で、男子、女子といった性別で固定的な仲間をつくりがちであり、特に、自分たちで何かを決定して取り組む、というような活動の際には、男女で意見が対立することもある。性差を越えて互いの立場や考えを尊重し、みんな協力することのよさを実感させるためにも、自然教室の大きな意義がある。そこで、子どもたちも非常に楽しみにしているこの自然教室の目的に気づくことができるように、昨年度の自然教室のビデオを提示した。活動自体への期待感が高まったのはもちろんであるが、その中で、現6年生がどのように活動を進めているかについて、気づいたことを話し合う場を位置づけた。子どもたちの気づきは以下のようなものであった。

- リーダーを中心にして、みんなで協力して活動を進めている。先生があまり口を出さなくて、自分たちで進めているところがすごい。
- 男子とか女子とか関係なく、みんなでいっしょに活動しているし、全体で活動するときは、何組とか関係なくいっしょに活動している。

そして、このような気づきを手がかりとして自分たちの問題を顕在化させようと考え、協力や交友の広がりについて視点をあてた意識調査を行い、その結果を子どもたちに知らせた。その結果、学級内の仲は割とよいが、学級を越えた仲の深まりに不足を感じている子どもや、時と場合によっては男女で対立してしまうという問題を感じている子どもが多数いることが明らかになった。そこでこのような問題を解決していくためのアイデアを出し合い、本活動主題の設定に至ったのである。

(2) 互いの考えを尊重しながら話し合いを進めるための、観点を明らかにした話し合い活動の工夫

それぞれが自分の主張を繰り返すだけでは、合意形成には至らない。そこで、目的性、相互性、実現性という観点を設定し、それぞれの観点に沿って自分の考えの妥当性を主張したり、観点に沿って互いの考えを吟味したりできるようにした。その中で、この観点が有効に機能するように、ワークシートと黒板書記の子どもが書く黒板を、観点で整理しやすいように構造化して提示した。これらの手だてによって、子どもは3つの観点を意識して意見の妥当性を考えるようになり、本時の話し合いでは観点に沿った価値ある意見が数多く出された。さらに、主観的な思いに偏った考えや根拠の薄い賛成や反対がほとんどなくなり、互いの意見の価値を考える子どもの姿が多く見られた。

(3) 全員が納得する集団決定を生み出す手だての工夫

話し合いの最後に結論を出す場面で、子どもの意見が分散し、かつそれぞれに一定の妥当性がある場合には、結論を導き出すのが困難な場合がある。このような場合は、3つの観点の中でもっとも重視される「目的性」と関係づけて、何のために話し合いをしているのかに立ち返らせ、結論を導くように助言した。本時では、2つのゲームがそれぞれ妥当であり、目的性への関係づけだけでは結論に至らなかったため、再度実現性の観点で議論を行い、決定に至った。このように、目的性を重視しつつ、観点に沿って意見の価値を吟味することで、子どもたちは合意形成に至った。

7 成果と課題

- 解決の必然性のある問題の設定と、観点を明確にした話し合い活動によって、子どもが互いの立場や考えの共通点・差異点を認め合う姿が見られた。
- 日常生活においては、個人差や性差の受け止め方に差があり、望ましい集団形成の途上にある。学級活動(2)との関連を図り、子どもが気づいていない問題を明確にし、解決の必然性をもたせた上で計画的に指導する必要がある。